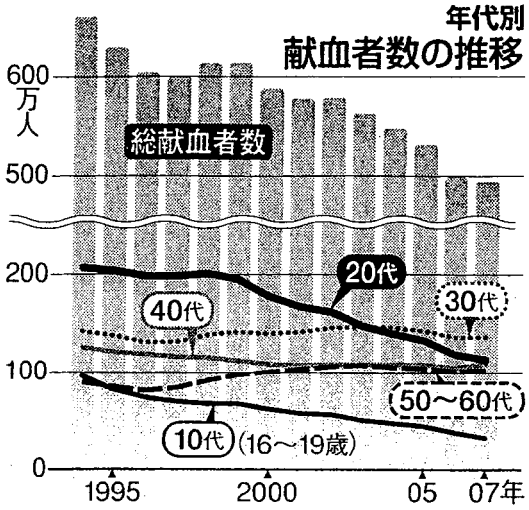
平成20年7月24日（木） 東京新聞 朝刊 10ページ

若者の献血 呼び戻せ

日本赤十字社 PR活動に力

年間献血者数が2006年に初めて500万人を割り、献血協力者は国民の4％弱と限られた現状のなか、特に若者の献血離れが進む。日本赤十字社は若い世代へのPRに力を入れるほか、夏期休暇などで献血者数が落ち込みがちな7月を「愛の血液助け合い運動」月間として協力を求めている。（野村由美子）



「親類が血液の病気でお世話になったから、お返しに」。愛知県の県血液センターで献血を終えた女性（四七）は献血に来た理由をそう話す。回数は百回を超える。「健康だからこそ続けられるし、すぐにできるボランティアだから」

実は全人口に対する献血者は二〇〇六年度で3・9％しかない。「協力してくれるのが同じ方ばかりなのが現状」と日本赤十字社の大田貴広さん。若者の献血関心度調査（厚生労働省）は、四人に一人が「献血について知らない」だった。

輸血用血液製剤には有効期限が短いものもあり、過不足なく継続的な献血者数の確保は不可欠。しかし春、夏、年末年始と学校や企業の休暇に合わせ、献血者数は落ち込む傾向がある。少子高齢化や、海外渡航歴による献血制限の対象者の増加も、献血者を減らす要因になっている。

■献血方法別の主な採血基準

	成分献血		全血献血	
	血漿成分献血	血小板成分献血	200ミリリットル献血	400ミリリットル献血
1回献血量	300ミリリットル～600ミリリットル（体重別）	400ミリリットル以下	200ミリリットル	400ミリリットル
年齢	18―69歳※	18―54歳	16―69歳※	18―69歳※
体重	男性45キログラム以上・女性40キログラム以上			50キログラム以上
最高血圧	90以上			

（ほかに血液比重、年間献血回数などの基準がある）
※65歳以上は60―64歳の間に献血経験がある人に限る

テレビモニターもある献血ルーム

大学生が「連盟」、自ら啓発

深刻なのは若い世代の減少。輸血を受ける側は八割以上が五十歳以上で若者には関心が低くなりがち。以前盛んだった高校での集団献血は、四百ミリリットル献血（十八歳以上）需要が高まり、〇〇年以降ほとんどなくなった。「十代で献血経験がある人はその後も抵抗なく協力してくれるのですが」と大田さんは残念がる。

日本赤十字社は〇五年度から五年計画で十、二十代の献血者を全体の33％から40％へ上げる目標を立てた。

献血の呼びかけを裏面に載せた紙専用のコピー機を全国の大学生協に無料設置したり、自動車教習所で広報映像を流したりすることも計画する。期待されるのは若者自身による献血啓発運動だ。各県で大学の有志が学生献血連盟をつくり、血液センターが支援する。

◆献血するには　各地の献血センターや駅前などの献血ルーム、献血バス（全血＝表参照＝のみ）を訪ねる。まずは問診票を記入し体調や注射、服薬歴、病歴、海外渡航歴などの質問に答える。医師の問診も受ける。「安全性検査だけでは検出できないウイルス混入などを問診を使って防ぐ」と大田さん。その後血圧を測り、二ミリリットルの血液を採り、成分量などを調べる。

成分献血は、抜いた血液から必要成分だけを抽出して、また残りを体内に戻すため、四十―九十分の時間が掛かる。全血より体への負担は軽いという。献血後はジュースやお菓子で水分補給と休憩を取ってもらって終了。

平成20年7月6日（日） 朝日新聞（大阪版） 朝刊 26ページ 「声」欄

16歳の誕生日 献血デビュー

高校生 内藤 大喜
（奈良市 16）

僕はずっと、この日を待っていました。献血ができるようになる16歳の誕生日です。

小さい頃から、母や祖母の献血についていきました。当時は注射が大嫌いだったので、なぜ献血するのか不思議でした。しかし、ついていくうち、自然に思うようになりました。自分の血液で誰かが助かる。助けてあげられたら、と。

初めての献血ルームはうれしい半面、少し緊張もありました。しかし、看護師さんが優しく声をかけてくれて、リラックスできました。

おととしまでは高校に献血センターの方が来られて献血できたそうです。移動献血車が学校や役所、スーパーなどに定期的に来てくれたら、献血する人はもっと増えるのではないでしょうか。

健康な体に感謝しつつ、これからもずっと献血していきたいと思います。献血デビューした16歳の誕生日。一生忘れられない大切な日になりました。

参考資料 2

【平成19年度　行事等実績】

	実施年月日	行事の名称	開催場所	対象	概要	備考
厚生労働省	平成19年7月4日	献血運動推進全国大会	福井県	国民	献血運動を全国的な国民運動としてさらに盛り上げるために開催。 (昭和天皇記念献血推進賞、昭和天皇記念学術賞授与及び日本赤十字社有功章授与(皇太子殿下)、厚生労働大臣表彰状及び感謝状贈呈(厚生労働大臣)、福井県知事感謝状贈呈(福井県知事)	日本赤十字社共催
	平成19年7月	愛の血液助け合い運動		国民	愛の血液助け合い運動月間の一環として、都道府県等(約36,000枚)へのポスターの配布。	日本赤十字社共催
	平成19年11月～20年3月	献血普及啓発広告の雑誌掲載		10代～20代の若年層	「週間少年ジャンプ」、「テレビジョン」、「non　no」、「smart」の雑誌媒体への広告掲載。	
	平成20年1月1日～2月29日	「はたちの献血」キャンペーン		国民	献血者が減少しがちな冬期において安全な血液製剤を安定的に確保するため、新たに成人式を迎える「はたち」の若者を中心として広く国民各層に献血に関する理解と協力を求める運動の一環として、都道府県等(約37,300枚)へのポスターの配布。	日本赤十字社共催
	平成20年2月11日	献血推進の街頭キャンペーン	東京・お台場	国民(特に若年層)	献血量が少なくなる春の時期にあわせ、若年層を中心とした国民の献血に対する意識の高揚と献血参加促進を図る目的で行う。 会場をけんけつちゃんパークに見立て、けんけつちゃん親子塗り絵コーナーや、けんけつちゃんとの記念撮影コーナーほか、「けんけつちゃん絵描き歌」の初披露やけんけつ体操、特別ゲストとして俳優の永井大さんをお招きしてのトークショーなど多様なステージを展開。	
	平成20年3月	中学生用　血液及び献血についての正しい知識の普及啓発資材(ポスター)制作		中学生	中学生に対し、血液及び献血についての正しい知識の普及啓発を図れるようなポスターを中学校(約34,000枚)及び都道府県等(約2,000枚)へ配布。	
	平成20年2月	献血普及アニメーション(DVD)制作(高校生向け)		高校生	近年、少子高齢化に伴い献血可能人口が減少する中、特に若年層献血者の減少が著しいことから将来の血液製剤の安定供給の確保を図ること目的とした、献血普及アニメーション(高校生向け)を制作し、全国の高校(約6,100枚)及び各都道府県薬務主管課等(約200枚)に配布。	
	平成20年2月	献血についての副読本(HOP STEP　JUMP(高校生用・教員用))制作		高校生	近年、少子高齢化に伴い献血可能人口が減少する中、特に若年層献血者の減少が著しいことから将来の血液製剤の安定供給の確保を図ること目的とした、献血に関する副読本(高校生用・教員用)を制作し、全国の高校生(約1,158,000部)及び教員(約123,000部)等に配布。	

【北海道】

実施機関	実施期間	事業の名称	実施場所	対象者	事業の内容	備考
北海道	H19.11.1～30	ティーンズドナー献血推進キャンペーン	道内一円	10歳代から20歳代の道民	近年、10歳代から20歳代の献血者が減少傾向にあることから、これらの年齢層に対する普及啓発を強化するため、血液センターと共催で若者を対象とした事業を実施した。	血液センター共催 ラジオコマーシャルの制作・放送： 20秒×50本 人気ラジオ番組とのタイアップ ポスターの作成： 1，000枚
	H19.7.23～25	愛の血液助け合い運動パネル展	道庁1階道政広報コーナー	地域住民	愛の血液助け合い運動月間の一環として「献血パネル展」を開催した。	血液センター共催
	H20.1.15～16	はたちの献血ポスター展	道庁1階道政広報コーナー	地域住民	はたちの献血キャンペーンの一環としてポスター展を開催した。	血液センター共催
	H19.10.1～5	献血推進タウン啓発	稚内市内	地域住民	北海道旭川赤十字血液センターの移動献血車を市内に巡回させ、稚内市立図書館において献血に関するパネル展を実施するとともに、献血推進に係る啓発資材等の配布し、街頭献血の呼びかけを実施した。	血液センター(旭川)共催 対象者数：約500名
	通年	広報	道内一円	道民	通年で報道機関や各市町村に対する広報資料の提供により献血推進の普及啓発を行った。	ラジオCM等：延べ21日間 北海道広報資料：通年
	H19.9.13	北海道社会貢献賞の表彰	かでる2・7　大ホール	献血推進功労者	献血の推進に組織を挙げて多大な功績があった団体や学校等を表彰した。	血液センター共催 表彰者数：10団体
北海道センター	平成19年4月～9月	サタデー・テーリング	北海道赤十字血液センター	札幌市小学生4年～6年生	札幌市交通局が実施している小学生高学年を対象としている、札幌市の施設を知り、郷土の知識を高めようと企画されているスタンプラリー方式の事業に血液センターをスタンプポイント設置場所として参加し、若年層の献血啓蒙をおこなった。	期間中の来場者　2，834名
	平成19年7月	サマー献血キャンペーン	北海道センター、附属センター及び室蘭出張所	道民	全道の学生ボランティアグループが各地で自主的な企画で献血と推進・啓蒙活動を実施した。	
	平成19年12月	クリスマス献血キャンペーン	北海道センター、附属センター及び室蘭出張所	道民	全道の学生ボランティアグループが各地で自主的な企画で献血と推進・啓蒙活動を実施した。	
	平成19年8月	北海道学生献血推進協議会	北海道赤十字センター	道内学生献血推進ボランティアグループ	全道の学生ボランティアグループが北海道センターに集まり、キャンペーンの実施要綱の検討及び若年層献血の推進についての討議を行った。さらに、血漿分画センターを見学し、血漿分画製剤の知識を深めた。	参加者　20名
	平成20年1月	北海道学生献血推進協議会	北海道赤十字センター	道内学生献血推進ボランティアグループ	全道の学生ボランティアグループが北海道センターに集まり、機関紙の内容、キャンペーンの実施要綱の検討、若年層献血の推進や学内献血のあり方及びボランティア組織のあり方等を協議した。	参加者　39名
	平成19年10月～12月	第2回「いのちと献血俳句コンテスト」	道内一円	道民	若年層を中心に幅広い年代から、献血に関する俳句の公募を行い、「献血」を通して支えられる「生命」に意識を向けさせるとともに献血活動の意義理解・普及の機会を創出することを目的とする。	応募総数　3，184人　10，304句

【青森県】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所等	対象	概要	備考
青森県	H19・7～8	《全国》愛の血液助け合い運動	県内一円	県民	ラジオ・フリーペーパー・ポスター・電光掲示板にて献血思想の普及啓発を図った。	血液センター共催
	H19・8・10	献血感謝の集い	青森駅前ビルアウガ5階イベントホール	県民	「愛の血液助け合い運動」の一環として開催。大臣賞伝達・知事賞贈呈・日赤有功章伝達・輸血体験発表・ミニコンサート。県民の献血への理解を深めてもらう。	血液センター共催 参加者　約200名
	H19・8・10	学生サマー献血キャンペーン	青森駅前ビルアウガ　横	県民	青森県学生献血推進連絡会が企画・運営。 主に大学生ボランティアによる献血呼びかけ・ティッシュ配り・着ぐるみ・手作りプラカード・ドリンクサービス・献血バス装飾。	血液センター共催 参加学生：23名 献血受付者：56名
	H19・9・30	八戸健康まつり	八戸市公会堂	八戸市近隣住民	公会堂内に献血・臓器・骨髄・献眼のブースを設け、参加者に説明をしたり、パンフレットを配布。	八戸市主催
	H19・12・2，9，16	学生クリスマス献血キャンペーン	県内3箇所のショッピングセンター	県民	青森県学生献血推進連絡会が企画・運営。 主に大学生・高校生ボランティアによる献血呼びかけ・ティッシュ配り・ドリンクサービス・着ぐるみとの記念撮影・手作り絵本、紙芝居・アンパンマンのエキス放映・ハンドベル・ドリンクサービス・くじ引き。	血液センター共催 参加学生：55名 献血受付者：229名
	H20・1～2	《全国》「はたちの献血キャンペーン」	県内一円	県民	ラジオ・フリーペーパー・ポスターにて献血思想の普及啓発を図った。	血液センター共催
	通年	400ml献血強化運動	県内一円	献血協力事業所	県献血推進協議会長名（知事）で、各協力事業所へ、400ml献血の協力を文書にてお願いした。	県内献血協力事業所：1，500箇所

【岩手県】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所等	対象	概要	備考
岩手県	7月18日	知事・日赤県支部長感謝状贈呈式	エスポワールいわて	献血推進協力団体及び個人	献血の推進に積極的に協力し、他の模範となる団体及び個人に対し、知事及び日本赤十字社岩手県支部長連名の感謝状を贈呈。	血液センター共催 15団体に対して感謝状を贈呈
岩手県	12月8日 ～12月25日	クリスマス献血キャンペーン	献血ルーム「メルシー」 他県内12ヶ所	県民各層	冬季における血液の安定確保と、「全国学生クリスマスキャンペーン2007」とのタイアップによる若年層に献血の輪を広げることを目的に実施。	血液センター共催 期間中献血実績(人) 献血受付数　3,407 献血者数　2,707 200mL　398 400mL　1,573 成分　736
岩手県	2月2日 ～2月14日	バレンタイン献血キャンペーン	献血ルーム「メルシー」 他県内7ヶ所	県民各層	冬季における血液の安定確保と、400mL献血の推進を目的に実施。 キャッチフレーズ 「献血はみんなの愛と勇気！」	血液センター共催 期間中献血実績(人) 献血受付数　2,464 献血者数　1,973 200mL　279 400mL　1,080 成分　614

【宮城県】

[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
宮城県	H19.6.1～H19.8.31 （募集） H19.11.15（表彰式） H20.1.1～H20.2.29 （ラジオCM放送）	愛の献血70字ストーリー募集事業	・県内の高等学校、市町村、保健所及び献血ルーム・バス等に応募用紙及びポスターを配布 ・インターネット、郵便等を利用（募集） ・「献血者に感謝する集い」で表彰 ・入賞作品によるラジオCM放送実施	若年層を中心に幅広い年代	献血思想の普及と献血意識の向上を図るため、「献血」に関するショートストーリー仕立てにした作品を募集し、優秀作品を表彰するとともに、入賞作品によるラジオCM広報を行う。	県内の高等学校119校に応募を呼びかけるなどし、117通の応募があった。

【秋田県】

[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
秋田県	通年	ふれあい献血キャンペーン	県内60カ所程度	若年層を中心に幅広い年代	地域の各種イベント又はショッピングセンター等で、地域住民に献血思想の啓発普及を図るとともに献血を実施する。	血液センター共催

【山形県】

[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
山形県	H19.7.19	献血功労団体知事感謝状贈呈式	山形県庁知事室	献血功労団体	献血運動の推進に積極的に協力し、その実績が顕著で他の模範となる団体の労に報いるため、知事感謝状の贈呈を行った。併せて厚生労働大臣表彰・感謝状贈呈の伝達を行った。	知事感謝状贈呈　12団体
	H20.1.1～3.31	ヤングブラッドキャンペーン	県内一円	若年層	若者を中心とした新規の成分献血協力者の増加を図ることを目的として、県赤十字血液センターと共催により、FMコミュニティ放送によるスポットCM、生番組でのパーソナリティーによる呼びかけ及び街頭放送等を実施。	血液センター共催

【福島県】

[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
福島県	H19.7.3～H19.9.7 （募集） H19.12.19（表彰式）	ジュニア献血ポスターコンクール	・県内の中学校等の全生徒に応募用紙を配布（募集） ・福島県赤十字血液センター（表彰式）	中学1年生～3年生	次の献血を担う中学生から、献血に関するポスターの公募を行い、献血の必要性・重要性を啓発し、近い将来の献血者の増加を図るとともに、優秀作品を活用したポスターを作成配布することにより、広く一般の方々にも献血の必要性や重要性を呼びかける。	血液センター共催 57校から293点の応募があった。また、優秀作品を用いたポスターを作成し、中学校等に配布した。
	H19.7.31～H20.3.31	ふれあい伝言板事業「ショートメッセージ募集」	・県内で実施される献血会場及び病院等	・初めて献血した高校生等 ・輸血を受けた本人またはその家族	今後とも安定的に献血者を確保するためには、若年層の献血が極めて重要であることから、「献血」や「輸血」に関するショートメッセージの募集をとおして、人間尊重と相互扶助の精神を基本理念とした献血意識の普及啓発を特に若年層に対して図るとともに、広く県民への献血への理解と協力を働きかけることを目的とする。	血液センター共催 献血した方から11点、輸血を受けた方やその家族から2点の応募があった。
	H19.12.23	ふれあい伝言板事業「絵本の読み聞かせ」	クリスマス献血キャンペーン福島市会場（ツイン広場）	献血協力者及びその家族（幼・小児）等	献血に協力していただいた親子連れや呼びかけに興味をもった子供たち（幼・小児）に絵本「ぼくの血みんなの血」の読み聞かせを学生ボランティアに実施してもらい、幼・小児期における献血思想の普及・啓発を図る。	血液センター共催 献血待ちの親子、呼びかけに興味をもった親子等が参加した。

【茨城県】

[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
茨城県	H19.11.1～H20.3.31	高校献血キャンペーン	献血ルーム、高等学校	高校生	・ポスターコンクール及びアンケートの実施	血液センター共催 高校生に献血への関心を持ってもらう
	H20.1.1～H20.2.29	はたちの献血キャンペーン	水戸献血ルーム	水戸周辺の大学生	・駅前北口へ移転した水戸献血ルームのため、ポケットティッシュの配布 ・毎週金曜日にネイルアートの実施	血液センター共催 水戸献血ルームの存在を大学生にPR

【栃木県】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所	対象	概要	備考
栃木県	H19.6.9～H19.6.10	「県民の日」献血キャンペーン	渡瀬運動公園（藤岡町） 県民の日記念イベント「どうゆうのけんちょう？」会場内	県民	栃木県医薬品配置協会や栃木県学生献血推進連盟「かけはし」の協力を得て、県民に対し、献血の普及啓発を行うとともに、移動採血車による献血を行うことにより、「献血思想」の意識の醸成を図ることを目的とする。	血液センター共催 来場者：約1，200名 献血者数：79名
	H19.7.26	献血功労者表彰式及び記念コンサート	とちぎ福祉プラザ	県民	平成19年度愛の血液助け合い運動の関連行事として、特に献血事業に積極的に協力し、広く県民の模範となるべき功労のあった団体及び個人に対して、献血推進協議会会長の感謝状を贈呈するとともに、県民を対象とした記念コンサートを開催し、献血の一層の推進を図ることを目的とする。	来場者：約150名

【群馬県】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所	対象	概要	備考
群馬県	H19.7.29	第22回群馬県献血推進県民大会	県庁県民ホール	県内の献血功労者等	献血功労者等の表彰を実施。また、採血車を配車し、献血の協力を仰いだ。	血液センター共催 出席者：県内各地から200名
	H20.1.12及び H20.1.14	「はたちの献血」街頭キャンペーン	JR前橋駅、JR高崎駅周辺及び太田市内ショッピングセンター地内	若年層を中心に幅広い世代	「はたちの献血」期間中、特に成人の日前後に街頭キャンペーンを実施することにより、若年層献血者を確保することを目的とする。	血液センター共催 啓発資材6,000個を通行人に配布
群馬県赤十字血液センター	H19.9.23	ｻﾞｽﾊﾟ草津「献血応援ｽﾍﾟｼｬﾙﾏｯﾁ」開催	群馬県立敷島陸上競技場	若年層を中心に幅広い年代	日本ﾌﾟﾛｻｯｶｰﾘｰｸﾞ公式戦（J2）「ｻﾞｽﾊﾟ草津vsベガルタ仙台」の試合を「献血応援ｽﾍﾟｼｬﾙﾏｯﾁ」と銘打って血液ｾﾝﾀｰ所長の「献血推進ﾒｯｾｰｼﾞ」の発信・ﾊｰﾌﾀｲﾑ抽選会　また、けんけつちゃんの着ぐるみによる場内観客への献血PR等実施。当日は献血車を配車し、採血も行われた。また、監督が献血に協力され、選手による献血の呼び込み（ポケットティシュ）も行われた。ザスパ草津は今年5月に献血推進・啓蒙に必要な「献血PRポスター」の作成に協力、作成したポスターは献血団体・県内高等学校に配布する予定としている。	血液センター共催 当日の観客6,817人（地元テレビ局で取り上げられた。）

【埼玉県】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所	対象	概要	備考
埼玉県	H19.7.24	愛の血液助け合いの集い	埼玉会館	県民、受賞者	医療に要するすべての血液製剤を献血により確保する確保する体制を確立することを目的として開催し、献血功労団体（者）の表彰等の諸行事を実施して、広く県民各層に献血思想の普及と献血への理解と協力を求めるものである。	血液センター共催
	H19.2.1～H19.5.9 （募集）	献血推進ポスターコンクール		県内設置の中学生生徒	若年層における献血の普及を図るため、献血推進用のポスターの原画を募集し、優秀作品を選考する。最優秀作品においてポスターを作成、献血の普及を図るとともに、広く県民に呼びかけを行うものとする。	血液センター共催 県内の中高生から471点の応募があった。

【千葉県】

[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
千葉県	H19.7.1	愛の血液助け合い運動	JR千葉駅東口前並びにクリスタル広場	県民	広く県民に献血への理解と協力を求めることを目的に、主催者出席による運動月間オープニングセレモニーの実施と「ポートクィーン千葉」によるうちわの配布並びに献血へ呼び掛けを実施した。	血液センター共催 イベントとして、県警音楽隊による演奏
	H19.8.1～8.31	千葉県公務員職場献血推進月間	県内各地	県民	献血協力者が減少する8月に、県内の公務員を対象に職場での献血の実施を呼びかけ、この時期に必要な血液の確保を図ることを目的とする。	血液センター共催
	H.19.8.5	学生サマーキャンペーン	ららぽーとTOKYO―BAY	県民	夏場の血液不足を補う手段の一つとし、若年層への献血の理解と協力を促す事を目的とする。献血会場にて献血への呼び掛け等を実施。	血液センター共催 約20名～25名名の学生が呼び掛けをする。
	H19.8.23	小学生献血学習会	千葉県千葉港赤十字血液センター 東京赤十字血液センター（視察先）	県内の小学校に在学する児童生徒とその保護者	若年層に対する献血啓発活動の一環として、普段献血に接することのない子供に幼少時から献血に対する興味、関心を持ってもらうことで、将来的な献血推進に資することを目的に実施。（スライドやビデオによる血液の働きや献血の意義等について説明、血液検査・製剤工程等施設見学等を実施。）	血液センター共催 大型バス2台利用した献血学習バスツアー　28組62名の親子が参加
	H.19.9.13	ライオンズクラブ国際協会333-C地区献血推進研究会	ホテルスプリングス幕張	県内ライオンズクラブ	県内ライオンズクラブを対象に、日頃の献血奉仕活動に対する意見交換や、事例発表などをしてもらい今後の献血奉仕活動に生かす。	血液センター共催
	H19.10.30	千葉県献血感謝のつどい	千葉県文化会館	献血功労者及び献血協力推進団体	県内において献血功労者及び献血協力推進団体に対して、表彰する。また、中・高校生から献血推進啓発ポスターを募集し、それぞれ知事賞1名・千葉県健康福祉部長賞2名・千葉県赤十字血液センター所長賞2名を選び、表彰した。	血液センター共催 県内の中学生135名、高校生30名から応募があった。
	H.19.12.22 H.19.12.23	学生クリスマスキャンペーン	JR千葉駅東口前並びにクリスタル広場ららぽーとTOKYO―BAY	県民	全国統一キャンペーンを12月に行うことにより、冬場の血液不足を補う手段の一つとし、若年層への献血の理解と協力を促す事を目的とする。献血会場にて献血への呼び掛け等を実施。	血液センター共催
	H20.1.12	はたちの献血キャンペーン	フルルガーデン八千代	県民	特に献血協力者数が減少傾向となる冬期に、広く県民に対し献血への理解と協力を求めることを目的として、主催者出席によるオープニングセレモニーを実施。併せて、「千葉ロッテマリーンズ」選手とマスコットによるトークショー、サイン会、献血クイズ等のイベント並びに献血呼び掛け等を実施した。	血液センター共催 千葉ロッテマリーンズ 浅間敬太選手 末永仁志選手
	H20.2.1～2.29	千葉県献血推進強調月間	県内各地	県民	国が主唱する「はたちの献血」キャンペーンの徹底を期するために、本県独自の運動として県内各地の献血会場において啓発資材の配布を実施した。	血液センター共催
	H20.3.22	複数回献血クラブ	千葉市文化交流プラザ	県民	県民及び、献血協力者にお集まり頂き、「献血をする上での健康づくり」講演「糖尿病漫談と健康体操」	血液センター共催

【東京都】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所等	対象	概要	備考
東京都	H19.10.1～H20.3.31	携帯メールクラブキャンペーン	東京都内各献血ルーム	ルーム来所献血者	携帯メールクラブ会員募集と、メールでの成分献血予約を推進するためにキャンペーンを実施。 期間中、メールで成分献血予約した会員と、400mL献血のメール依頼に協力された会員に記念品を進呈する。	血液センター共催 通常月平均1,000名 キャンペーン期間月平均1,500名
	H19.11.4(日) 17(土) H20.3.15(土)	医学講演・赤十字救急法(AED)短期講習会 "サンクスドナーAED"	武蔵野赤十字病院　1回 東京都赤十字血液センター　2回	携帯メールクラブ会員	日頃の献血への協力に対するお礼として、携帯メールクラブの会員を対象とする医学講演と赤十字救急法講習会を開催し献血の重要性とAEDの使用法を含めた心肺蘇生法について理解・習得いただく。	血液センター共催 受講定員280名に対して1,100名以上の受講申込があった。
	カード配付期間 H19.9.1～H19.11.18 キャンペーン期間 ①H19.11.19～ H19.12.17 ②H20.1.2～ H20.1.31 ③H20.3.10～ H20.4.14	冬季献血ほっとキャンペーン	東京都内各献血ルーム	ルーム来所献血者	期間中に事前に配布したカードを持参の上献血に協力してくれた方に記念品を渡すことで、血液が不足する冬季(11月～4月上旬)の献血者確保を目的とする。	血液センター共催
	H20.2.1～H20.2.29 (配布)	携帯メールクラブ会員募集キャンペーン (もやっとスティック)	東京都内各献血ルーム	ルーム来所献血者	携帯メールクラブのPRと会員募集を目的としてキャンペーンを実施。 期間中、献血された方に簡単なパズル「モヤっとスティック」を配布。「モヤっとスティック」を解答し、携帯メールクラブに会員登録された方は、次回献血時に記念品を進呈する。	血液センター共催 新規登録者数＝通常月平均600名 配布後の2月は1,721名
	H19.4月24日～ H20.4月末	400mL献血リピートキャンペーン	移動・出張採血現場・都内献血ルーム	400mL献血協力者	移動採血現場で400mL献血協力者にキャンペーンカードを配布し、次回そのカードを持参の上再度400mL献血に協力してくれた方に記念品をプレゼントする。年2回以上の複数回献血者の増加を目的とする。	血液センター共催
	H20.2月1日～3月31日	チャレンジ成分キャンペーン	東京都内献血ルーム (全血ルームを除く)	ルーム来所献血者	都内献血ルームで全血献血協力者にキャンペーンカードを配布し、次回そのカードを持参の上成分献血に協力してくれた方に記念品をプレゼントする。全血献血協力者に成分献血の協力も呼びかけることで、一人当たりの献血回数の増加を目的とする。	血液センター共催
	H20.2月1日～3月31日	成分1・2・3献血キャンペーン	東京都内献血ルーム (全血ルームを除く)	ルーム来所献血者	都内献血ルームでキャンペーンカードを配布し、成分献血協力ごとに1回スタンプを押印し、3回押印された方に記念品をプレゼントする。定期的に成分献血にご協力をいただくことを目的とする。	血液センター共催
	H19.8.7～H19.8.8	献血おもしろゼミナール	東京都赤十字血液センター (日本赤十字社辰巳ビル)	小学3年生以上の児童及び保護者	若年層への献血啓発事業として実施。小学生を対象にスライド学習及びパネルクイズ、検査・製材・供給部門の所内見学等を実施し、将来の献血者育成及び献血思想の普及につなげることを目的とする。	血液センター共催 二日間計4回の開催で、合計56名が参加。好評により、その後も学校単位等で受入れを実施。20年度以降も継続して実施予定。

【神奈川県】

実施都道府県	実施年月日	イベント名	実施場所	対象者	内容	成果
神奈川県	12月1日	神奈川県献血推進功労者表彰式	横浜市教育会館	献血推進功労者及び献血の絵ポスター展入賞者	献血の推進に功績のある団体及び個人に対して表彰を行う。	血液センター共催
	10～2月	献血の絵ポスター展	横浜マリタイムミュージアム他県内赤十字病院	県内在住・在学の小中学生	献血可能年齢に達しない小中学生が献血に関心を寄せる契機となるよう、献血に関する絵画を募集する。	血液センター共催
	8月6日～10日 12月26日	献血ボランティアスクール	県内3箇所の採血会場及びその周辺	県内在学の高校生	献血に関する座学や献血ルーム・バスの見学、採血現場での呼び掛けや接遇などのボランティア体験を通じて、高校生が献血についてより深く理解することにより、自発的なボランティア活動の契機とすることを目的とする。	血液センター共催 参加者から、将来、献血や献血に関するボランティア活動について積極的に参加したいという感想が得られた。また、参加者を対象に12月により深い内容でスクールを開催した。
神奈川県内赤十字血液センター	10月17日	ボラフェスタ IN KANAGAWA	日本丸メモリアルパーク	県内ボランティア団体	ボランティア団体同士の交流を通じて、その輪を広げるとともに、ボランティア意識の情勢を図ることを目的とする。また、献血をボランティアとしての認識を広めることで、献血意識向上への波及を期待するもの。	血液センター共催 イベント内で実施するラジオの公開生放送に県知事が出演し、献血の現状や重要性などをリスナーに訴えた。

【新潟県】

実施都道府県	実施年月日	イベント名	実施場所	対象者	内容	成果
新潟県	平成20年3月8日	新潟県輸血フォーラム	新潟大学医歯学総合病院	輸血医療関係者	輸血療法を適正に行う上での諸問題等についての理解を深め、もって血液製剤の使用のより一層の適正化を図る。 (内容)合同輸血療法委員会、研究発表、講演会	血液センター共催 適正使用への理解と協力をお願いした。
	通年	献血普及講演会	高等学校	高校生	将来の献血を支える若年層へ献血知識の普及啓発を図る。	血液センター共催 7校で実施。講演会後、献血呼びかけ活動に参加した高校生もいるなど、普及啓発が図られた。
	平成19年9月7日	献血功労者表彰式	新潟県自治会館	献血運動推進団体	長年にわたり献血に協力いただいている団体等を表彰した。	血液センター共催 今後も継続的な協力が期待できる。